



荒れ果てた大地に
明日の世界を見た
少年少女がいる。

二〇〇三年三月、米軍によるイラク侵攻が開始され
国境の小さな村に運命のときが訪れる。

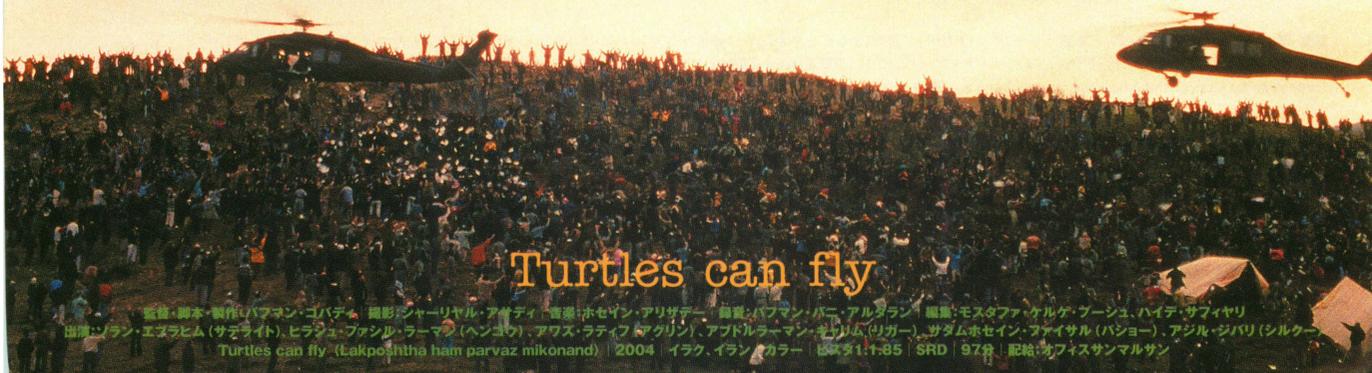
イラク・クルディスタンを舞台とした
二十世紀の叙事詩。

2004サンセバスチャン国際映画祭グランプリ
第5回東京フィルメックス審査員特別賞、*Aguiré* 観客賞
2004シカゴ国際映画祭審査員特別賞、2004サンパウロ国際映画祭観客賞、2005ロッテルダム国際映画祭観客賞
2005ベルリン国際映画祭平和映画賞

亀も空を飛ぶ

バフマン・ゴバディ監督作品

(『わが故郷の歌』『酔っぱらった馬の時間』)



Turtles can fly

監督・脚本・制作/バフマン・ゴバディ、撮影/ジャーリヤル・アガディ、音楽/ホセイン・アリザデー、編集/バフマン・バニ・アルタラン、編集/モスタファ・ケルゲ、フーシュ、ハйте・サフィヤリ
出演/ザン・エヌラヒム(サテライト)、ヒラジュー・ファンル、ラーマ、(ヘンヌウ)、アワズ、ラティフ・マクリン、アブドルラーマン、モリム、(リカー)、サダム・ホセイン、ファイサル(ハショー)、アジル・ジハリ(シルクー)
Turtles can fly (Takposhtha ham parvaz mikonand) | 2004 | イラク、イラン、カラー | 長さ111:85 | SRD | 97巻 | 配給/オフィスサンマルサン

世界の誰も、ボクらのことは分からない。

米軍のイラク侵攻前夜。

イラク北部クルディスタンで始まる子どもたちの物語—

戦争で荒廃した大地にたくましく生きる子どもたちと、彼らが経験する出来事を、リアリズムと幻想を混在させた力強いタッチで描いた、イランのクルド人監督バフマン・ゴバディの最新作。2003年3月に始まったアメリカ軍のイラク侵攻を背景に、ニュース映像では知ることの出来ないイラクの悲痛な現状を映し出しながら、ユーモアを忘れない温かいまなざしと、マジック・リアリズムの手法で、見る者を魅了していく。デビュー作『酔っぱらった馬の時間』(00)に続き、再び子どもたちの世界を描くことに回帰したゴバディは、そこに未だ収束の道が見えないイラク戦争という歴史的事実を重ね合わせ、21世紀の新たな叙事詩を完成させた。

イラク戦争を舞台にした「リアルタイムの叙事詩」

舞台は2003年春、イラク北部クルディスタン地方の小さな村。イラン・イラク戦争、湾岸戦争などで荒廃したこの地方に、再び新たな戦争が始まろうとしている。大人たちはアメリカ軍の動向を知ろうと、衛星放送を受信するためのパラボラ・アンテナを利発な孤児の少年サテライトに買いに行かせる。彼は近在の村々を巡る便利屋として大人たちに重宝されている。またこの村では、子どもたちが地雷を掘り出して国連の出先機関に買ってもらっている。サテライトはこの仕事の元締めもしていて、掘り出した地雷の値段交渉から、地雷除去を依頼する地主たちとの交渉までを一手に引き受けて、子どもたちから慕われている。この危険な仕事で子どもたちが得るわずかな金は、大切な現金収入なのだ。サテライトは村のモスクにパラボラ・アンテナを設置し、衛星放送を受信するが、肝心のニュースは英語放送で誰も理解できない。開戦の情報はどうやったら得ることができるのか…。ある日サテライトは、ハラブジャから来たという、赤ん坊を連れた難民の少女に恋をする。かたくなに心を閉ざす彼女には、両腕のない兄がいた。米軍の侵攻が刻々と迫る中、サテライトは彼が予知能力を持っていることに気付く…。

世界の映画祭で、28もの賞に輝く

ゴバディ監督は、開戦6週間後の5月1日にブッシュ米大統領が空母リンカーンでおこなった「勝利宣言」の後、同月、バグダッドで自作『わが故郷の歌』(02)を上映するためにイラクに入った。そこで見たイラクの惨状、特に子どもたちの状況が、この映画の着手を決意させたという。ゴバディは、バグダッドをしてアルビルなどの町で「戦闘終結」直後のイラクの様子をつぶさに見て回った。その上で03年秋から始まった本作の撮影はすべてイラクのクルディスタン地方で行われ、圧倒的な臨場感で米軍の侵攻が描かれている。イラク戦争ほど世界で「戦争の大義」が問題にされたことはないだろう。しかし大義を持つと持つまいと、戦争に巻き込まれる悲劇には何ら変わりはないということ、さらに真っ先に子どもたちを犠牲にし、その心に生涯消えない傷を残すことを、この映画はあらためて気付かせてくれる。

2004年9月、ワールドプレミアとなったスペインのサンセバスチャン国際映画祭でグランプリを受賞し、その後も欧州、アジア、北南米各地の映画祭で28に及ぶ賞に輝いている。特に観客賞の受賞が多いことは、この「リアルタイムの叙事詩」への大きな勲章である。2005年にはベルリン国際映画祭の青少年審査員部門に招待され、映画祭の全作品の中から選出される「平和映画賞」を受賞した。

監督・脚本・製作：バフマン・ゴバディ／撮影：シャリヤル・アサディ／音楽：ホセイン・アリザデー／録音：バフマン・バニ・アルダラン／編集：モスタファ・ケルゲ・ブーシュ、ハイデ・サフィヤリ
出演：ソラン・エブラヒム(サテライト)、ヒラシュ・ファシル・ラーマン(ヘンゴウ)、アワズ・ラティフ(アグリ)、アブドルラーマン・キャリム(リガー)、サダムホセイン・ファイサル(パシヨ)、アジル・ジバリ(シルクー)
Turtles can fly < Lakposhtha ham parvaz mikonand > 2004/イラク、イラン/カラー/ビスタ1:1.85/SRD/97分 配給：オフィスサンマルサン <http://www.sanmarusan.com/>



9月17日(土)より独占公開

特別鑑賞券¥1500発売中!! 税込・当日1800円の処

ペア前売券(岩波ホール窓口のみ) ¥2900

※岩波ホールチケットガイド(ビル1階)の他都内プレイガイドにて発売中

岩波ホール

03
(3262)
5252

<http://www.iwanami-hall.com/>

●地下鉄(都営三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線)神保町A6出口すぐ
JR(中央線)水道橋または御茶ノ水駅・下車12分 ●神保町交差点角

上映時間	月～金	11:30	2:30	6:30
[入替制・自由席定員制]	土・日・祝			5:30